

基本理念及び目指す人間像について（案）

1 基本理念

案 1

- ・ ふるさと姫路の未来をひらく人づくり（現計画継承）

案 2

- ・ ふるさと姫路が育む未来をひらく人づくり

【設定理由】

- 姫路をふるさととする一人一人の個人が、自他の生命を互いに尊重しながら心豊かにたくましく、自らの人生を生き抜いていく力を育むことが、確かな未来を創造することにつながることを期待する。
- 未来とは、個人の未来、他者の未来、地域の未来、姫路の未来、ひいては国・世界の未来でもある。将来の予測が困難な「VUCA」時代を生き抜くためには、未来を切りひらき、社会の課題や変化に柔軟に対応できる人材の育成、予測できない未来に向けて、自らがあべき社会を創り出していくといった視点が必要となる。そのような視点を大切にすることで、豊かさや強靭さ（レジリエンス）を備えた、持続可能な社会を維持・発展させることができると考える。

2 サブタイトルについて

- ・ 全ての人が自分らしく学び、つなげる教育を目指して

【設定理由】

- 疾病や障害の有無、性別、年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などを問わず、姫路で暮らす人、姫路で学び、働く人など、全ての人が豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じ、それぞれのニーズに応じて個別最適な学びができる環境づくりが重要である。
- 「自分らしく学ぶ」とは、「なぜだろう」「もっと知りたい」といった興味・関心、一定の技能や資格を身につけるといった目標等を出発点として、自分なりの問いを立て、学ぶ内容や方法を選択し、自分なりの答えを見つけていく主体的な過程である。
- また、日本社会に根差したウェルビーイングの向上のためには、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じることが大切であり、教育を通じてその向上を図らなければならない。

○学校教育における学びの多様化が一層進むとともに、社会人の学び直し（リカレント教育）をはじめとする生涯学習の必要性も高まっている。同一年齢での単線的な学びや進路選択を前提とした人生のモデルから、一人一人の学ぶ時期や進路が複線化する人生のマルチステージモデルへと転換することが予測される。

○学びとは、一人一人が豊かな人生を送ることができるよう、個人の自発的な意思に基づいて行うことを基本とし、生涯を通じてなされるものである。子どもや若者、社会人、高齢者等、年齢を問わず学び続け、自己実現を図るとともに、学びの成果を地域や社会に還元することが大切である。

○生涯にわたる育ちと学び（カリキュラム）の連続性や他者との関係性、地域や家庭、行政、企業等と学校園の連携など「つながり」を大切にした教育環境の充実を目指す。

3 目指す人間像について

現行計画の人間像に含まれる要素（「自立」「協働」「共生」）を継承したい。

【自立】

・自身の可能性を信じ、学び続ける自立した人間

（趣旨）

○地球規模での気候変動、目まぐるしく変化する国際情勢、急速に進む人口構造の変化など、将来の予測が困難な時代において、それらの変化を「正しく恐れ」、「前向きに」、そして「しなやかに」受け止め、自身の知・徳・体を大切にしながら「生きる力」を育むことが重要である。そのためには、自らの可能性を信じ、生涯にわたって自分らしく主体的に学び続ける自立した人間の育成を目指す。

【共生】

・ふるさとを愛し、互いの伝統や文化、生き方を尊重し、多様な人々と共生する人間

（趣旨）

○自分が生まれ、育ち、暮らしている地域をふるさととして大切に思い、愛着や誇りを持つとともに、我が国の伝統や文化を深く理解した上で、世界の多様な文化の中で自他の違い、生き方を認め、尊重することが大切である。そして、感性を発揮しながら、年齢、性別、国籍、家庭環境、障害の有無などにかかわらず、異なる文化や価値観を持つ多様な人々と共に生きる人間の育成を目指す。

【協働】

・ 持続可能な社会の創り手としてつながり、協働できる人間

(趣旨)

○急速に進む I C T や A I 等の技術革新やグローバル化に対応した持続可能な社会（地域・国・世界）の維持・発展のために、学校園・家庭・地域等において、学んだ知識や技能を活かして、自分や社会にとってよりよいものは何かを判断し、社会の創り手として他者とつながり、協働できる人間の育成を目指す。